

# 平成30年度JAQG活動報告会について

## 1. はじめに

JAQG(Japanese Aerospace Quality Group)は、世界の航空宇宙業界における品質活動をリードするIAQG (International Aerospace Quality Group) に対応した国内組織として、2001年当工業会 (SJAC) 内に設置された。品質に関する国際統一規格の制定、認証制度の確立を図ることにより、品質改善とコスト削減を行うことを目的としている。2001年当初79社で設立したメンバー数も、現在、480社にのぼり、多くの方のご指導を受けながら活動を展開している。

ここでは、今年2月にJAQGメンバーに向けて開催した平成30年度JAQG活動報告会の様子を紹介する。

## 2. 報告会概要

航空宇宙分野の品質マネジメントシステム規格である9100規格（汎用的な品質マネジメントの国際規格ISO9001に航空宇宙業界特有の要求事項を追加したもの）改正版が、2016年秋IAQG 3セクター（アメリカ、アジア・太平洋、ヨーロッパ）で同時に発行された（日本ではJIS Q 9100：2016年版規格として発行されている）。2016年版への移行は、2018年9

月16日までとの期限が定められていたが、JIS Q 9100：2016年版への移行を希望する全ての組織の移行が無事完了した。今回の報告会では、JIS Q 9100：2016年版認証へのスムーズな移行を支援し、問題なく完了したとの報告以外にも、

我が国航空宇宙産業界の要求をIAQG施策に反映

品質保証制度全般の標準化の促進

品質保証に関するガイダンス・ベストプラクティスの提供

APAQGメンバーシップ規定等の作成支援等のJAQG活動に対し、各ワーキンググループがどのように取り組んでいるかに焦点をあてた報告が行われた。

また、活動報告に先立ち特別講演として、



特別講演 平上 部長（日本航空宇宙工業会）



報告会の様子（東京会場）



報告会の様子（名古屋会場）

弊会 調査部 部長 平上 雄一 が、「日本の航空機産業の現状 ～ クラスタへの期待と支援」と題して講演を行った。

なお、報告会に先立ち、新たにJAQGメンバーになることを検討している企業および新規に会員となったメンバー向けにJAQGの活動を紹介する入会オリエンテーションも開催した。

### 3. 報告会の内容

今回の報告会の参加者数、参加企業・機関数は以下の通りである。

東京会場（2/6開催）

参加者数：140名、

参加企業・機関数：91

名古屋会場（2/8開催）

参加者数：122名、

参加企業・機関数：65

報告会での報告内容（概略）を以下に示す。（報告順。（ ）内は報告者）

報告会当日の配付資料のPDFファイル版は、JAQGメンバー専用ページに掲載されている。

詳細は以下を参照されたい。

メンバー専用ページ

→JAQG活動報告会／説明会

リンク先：

<http://www.sjac.or.jp/jaqg/member/modules/smartsection/item.php?itemid=564>

#### (1) JAQG活動報告（森下 伸夫 JAQG幹事長（三菱重工業株式会社））

JAQG活動状況全般が報告された。

昨年5月に実施された平成30年度運営委員会にて承認された活動戦略、事業計画に基づき、ほぼ計画通りに活動が実施されているこ



森下 JAQG幹事長  
（三菱重工業株式会社）

とが報告された。具体的には、JIS Q 9100：2016年版認証へのスムーズな移行を支援し問題なく完了したこと、監督官庁等のステークホルダーに対しJIS Q9100シリーズ規格やその認証制度をご活用いただくための支援や紹介を継続していること、JIS Q9100の認証組織数が増加していること、新たなJAQGロードマップ（2019－2023）案の策定を実施したことなどである。

また、昨今国内で発生している材料試験報告書改ざん事案に対応するため、JAQGとしての次年度以降の活動を検討中であることも報告された。

#### (2) JRMC(Japan Registration Management Committee; 航空宇宙審査登録管理委員会) 活動報告（松田 豊 JRMC議長（川崎重工業株式会社））

9100規格の認証制度では、9001等の他の認証制度と異なり業界が自らスキームオーナーとなって関係機関を承認し、監視するしくみを構築することによって制度自体の信頼性をさらに高めている。JRMCは、このスキームオーナーとしてJIS Q 9100の認証基準の整備を行うとともに、認証制度の維持・管理活動



松田 JRMCC議長  
(川崎重工業株式会社)

を行っている。平成30年度の主な取り組みとして以下の報告がなされた。

- ・ 認証移行補足規定に基づき、JIS Q 9100：2016年版への認証移行状況を定期的に確認、認証移行を希望した全ての組織の移行が完了した。
- ・ 審査員の資格基準や認証プログラム基準（9104シリーズ規格）のIAQG改正作業へ参画した。
- ・ 認証組織数の増加や他国の認証制度立上げ気運の盛り上がりなどに呼応して関係機関の活動を立会／監視するOP監査員の増員を実施した。
- ・ 関係機関（認定機関：1、認証機関：5、審査員資格証明機関：1）に対する定期オーバーサイトを予定通り実施、またIAQG要請による臨時オーバーサイトを行った。
- ・ アジア・太平洋地区のOPMT（Other Party Management Team；業界による認証制度管理チーム）が設立された（傘下に、JRMCC及びKRMC（韓国航空宇宙審査登録管理委員会）を置く）。

また、今後の活動として、IAQGの認証基準規格改訂への参画及び円滑な移行への対応を行っていくこと、認証制度拡大（9110／

9120規格）の必要性・実現性検討を行うこと等が報告された。

### (3) ワーキンググループ（WG）の活動報告 （各WG主査）

各ワーキンググループ（WG）活動の今年度のトピックスを中心に報告を実施した。

#### (a) 規格検討WG活動報告

（岡本 勇司 主査（株式会社 SUBARU））



岡本 規格検討WG 主査  
(株式会社 SUBARU)

IAQGでの規格の制定／改正活動へ参画し、IAQGとしての意見を積極的にIAQGに対して提言した。IAQG規格に対応する国内規格の制定／改正作業については、国内での適用性／有用性について検討し、下記SJAC規格の制定／改正作業を実施した。

SJAC 9138「統計的製品合否判定に関する要求事項」2018年5月発行

又、規格の理解促進のため、IAQGで作成される規格の展開支援文書（FAQ等）／ガイダンス文書の日本語版資料の作成・維持作業を行い、9100：2016年版関連文書3件、9115<sup>\*1)</sup>規格の主要変更概要、9138規格の概要に関する展開支援文書をIAQGメンバー専用ページに掲載したこと等が報告された。

- \*1) SJAC9115：品質マネジメントー航空、宇宙及び防衛分野の組織に対する要求事項ー 納入ソフトウェア

又、IAQG新規作成規格の動向として、9147規格「救済困難な部品・材料の管理ー航空、宇宙及び防衛分野の組織に対する要求事項（仮称）」の新規制定について概要、及び9100：2016への移行審査時に、組織に対して発行されたNC（Nonconformance）の傾向（全世界、及び日本）が紹介がなされた。

(b) 特殊工程検討WG活動報告（堀田 彰彦 主査（川崎重工業株式会社））



堀田 特殊工程検討WG 主査  
（川崎重工業株式会社）

本WGでは、JAQGメンバーが特殊工程プロセスの世界規模の認定制度であるNadcap認証を取得／維持するための支援を実施している。

主要な活動としてNadcap監査基準であるAC日英対訳版53アイテムをJAQGメンバー専用ページに公開していること、今後は掲示するコモディティ／アイテムの拡充に取り組んでゆくことが報告された。

また、本認証制度の管理運営母体であるPRI（Performance Review Institute）の技術委員会に対し日本のサプライヤーの意見を提言

したこと、熱処理工程に関するAMSスペックの改訂案についてSAE（Society of Automotive Engineers）に提言を行い、11件のうち、9件が採用されたこと等も報告された。

現状Nadcapの審査員は外国人が多く、それらの審査は英語で実施されている。かねてより日本人審査員による日本語の審査の機会を増やすことがJAQGメンバーから要望されており、本WGで日本人監査員増員について支援していること、Nadcap初心者向けの資料をPRIの了解のもと和訳し、JAQGメンバー専用ページに掲載していること等も紹介された。

本年度のWG活動のトピックスとして、ダヴェンポート 悠 様（PRI日本事務所 マネジャー）に、Nadcapの最新活動状況を紹介して頂いた。



ダヴェンポート 悠 様  
（PRI 日本事務所 マネジャー）

(c) コミュニケーションWG活動報告（前畑 貴芳 主査（JAQG事務局））

本WGではJAQGウェブサイト維持・改修、JAQGニュースやウェブ通知、各種説明会の企画、JAQGメンバーからの直接問い合わせ等を通じて会員へ最新情報をタイムリーに提供している。



前畑 コミュニケーションWG 主査  
(日本航空宇宙工業会)



和田 スペースフォーラム 主査  
(三菱重工株式会社)

今年度は、38件のJAQGニュース配信を行ったこと、IAQGニュースレターの和訳版をJAQGウェブサイトに掲載したこと、JAQGウェブサイトの改善概要等が報告された。

また、昨年度の活動報告会でのアンケート結果に基づきSCMH説明会の開催を企画（東京および名古屋の2か所で開催）したこと等、JAQG広報推進に関わるWGの取り組みが報告された。

(d) スペースフォーラム活動報告（和田 隆志 主査（三菱重工株式会社））

JAQG スペースフォーラムは、国内宇宙業界が一体となって、JIS Q 9100品質マネジメントシステムを展開し、日本の宇宙製品の品質の著しい改善とコスト低減を図ることを活動方針としている。

平成27年度には9100規格準拠のJAXA品質要求文書「JMR-013 品質プログラム標準（基本要求JIS Q 9100）」が国内宇宙業界の共通的な品質規格として発行された。今年度も昨年度に引き続き、このJMR-013が呼び出される適用JAXAプロジェクトの拡大支援を通じ、日本国内企業における9100規格の適用拡大と活用の推進に努めていること、IAQG スペー

スフォーラムへ参画／提案活動を行っていること、各国の最新動向を国内活動に反映していること等のスペースフォーラム活動が報告された。

また、アジア・太平洋地域宇宙機関会議（APRSAF-25 2018年11月 シンガポール）にスペースフォーラムメンバーを派遣し、IAQG/APAQG概要と最近の活動、9100規格をベースにしたJAXA品質標準JMR-013の紹介を行ったこと等が報告された。

(e) SCMH (Supply Chain Management Handbook) WG活動報告（太田 茂雄 主査（住友精密工業株式会社））

SCMH開発はIAQG戦略の重要活動の一つとなっているものである。サプライヤーのためのガイダンス文書、トレーニング資料、ベストプラクティスを集め、既存の規格を補足し「どうすれば要求事項を満たせるのか」、また「どうすれば改善／向上を図ることができるのか」に焦点をあてた文書である。本WGはこのSCMH開発に関しIAQGレベルで参画しており、2018年末現在で35項目が発行されている。SCMH WGでは順次和訳作業を実施し、その成果をJAQGメンバー専用ページに公開、



太田 SCMH WG 主査  
(住友精密工業株式会社)



嶋貫 APAQGセクター・サブリーダー  
(株式会社 SUBARU)

JAQGメンバーへの普及を行っている。

今年度は、IAQG SCMH文書4件の和訳版を作成、更に現在4件の和訳作業に取り組んでいることが報告された。

また、今年度はWGの新たな取り組みとして、SCMH説明会を東京、名古屋で開催し、それぞれ約120名程度の参加者の80%から“満足度が高い／やや高い”との評価を頂いたことが紹介された。

#### (4) IAQG / APAQG (Asia-Pacific Aerospace Quality Group) 活動報告 (嶋貫 雅一 APAQGセクター・サブリーダー (株式会社 SUBARU))

IAQG/APAQG活動へ参加する目的は、品質関連の国際会議に積極的に参加し、日本の航空宇宙産業の意見を国際品質規格や国際航空宇宙認証制度のルールなどに反映させることである。

2018年は、IAQGフィレンツェ会議（2018年4月）、IAQG釜山会議（2018年10月）、APAQG済州島会議（2018年3月）、APAQGベンガルール会議（2018年9月）会議に参加し、

9100シリーズ規格の改正・移行状況、新規規格の開発、航空当局・防衛・宇宙等のステークホルダーとの関係強化等について協議したことなどが報告された。

また、APAQG活動の拡充のため、APAQGセミナーをニュージーランド オークランド市で2019年1月に開催したこと、JAQGが韓国工業会(KAIA) / 韓国航空宇宙品質グループ(KAQG)による韓国国内での9100認証スキームの立ち上げを支援し、日本に韓国を加えたAPAQG-OPMTが設立されたこと等が報告された。

#### 4. おわりに

以上、今年度のJAQG活動報告会につき内容を紹介した。JAQGメンバー数は近年増加の一途を辿っており500社に迫る勢いを示している。本活動報告会では、両会場ともJAQG活動についてご理解を深めていただくとともに、活発な質問、ご意見を頂戴した。頂戴したご意見は今後のJAQG活動の参考とさせていただきます、メンバー会社の品質向上、コスト低減への一助となるように活動を進めていく。

皆様のご指導、ご鞭撻を切にお願いする。

〔(一社)日本航空宇宙工業会 航空宇宙品質センター (JAQG) 事務局 部長 前畑 貴芳〕